

陸域発生プラスチックごみ流出抑制対策事業 調査結果

1 事業概要

各地域の河川に接続する小水路にごみトラップ（簡易柵）を設置し、その管理を、環境教育の一環として、市町・近隣の学校等が協働で取り組むモデル事業を実施することにより、陸域で発生したプラスチックごみの海域への流出防止を促進するとともに、陸域で発生したごみが海岸を汚染している事実についての県民への普及啓発を図った。

2 調査概要

(1) 調査対象

ごみトラップに集積したごみ

(2) 調査期間

令和3年12月～令和4年2月までの3ヵ月間

(3) 調査場所

地域	市町	場所	管理者
中予	松山市	北条高等学校付近	北条高等学校
	砥部町	フジ砥部原町店付近	砥部町
南予	宇和島市	宇和島東高等学校津島分校付近	宇和島東高等学校津島分校
	内子町	内子高等学校付近	内子町、内子高等学校

・松山市



・砥部町



・宇和島市



・内子町



(4) 調査方法

ごみトラップに集積したごみを全て回収し、分類別に写真撮影、個数を測定

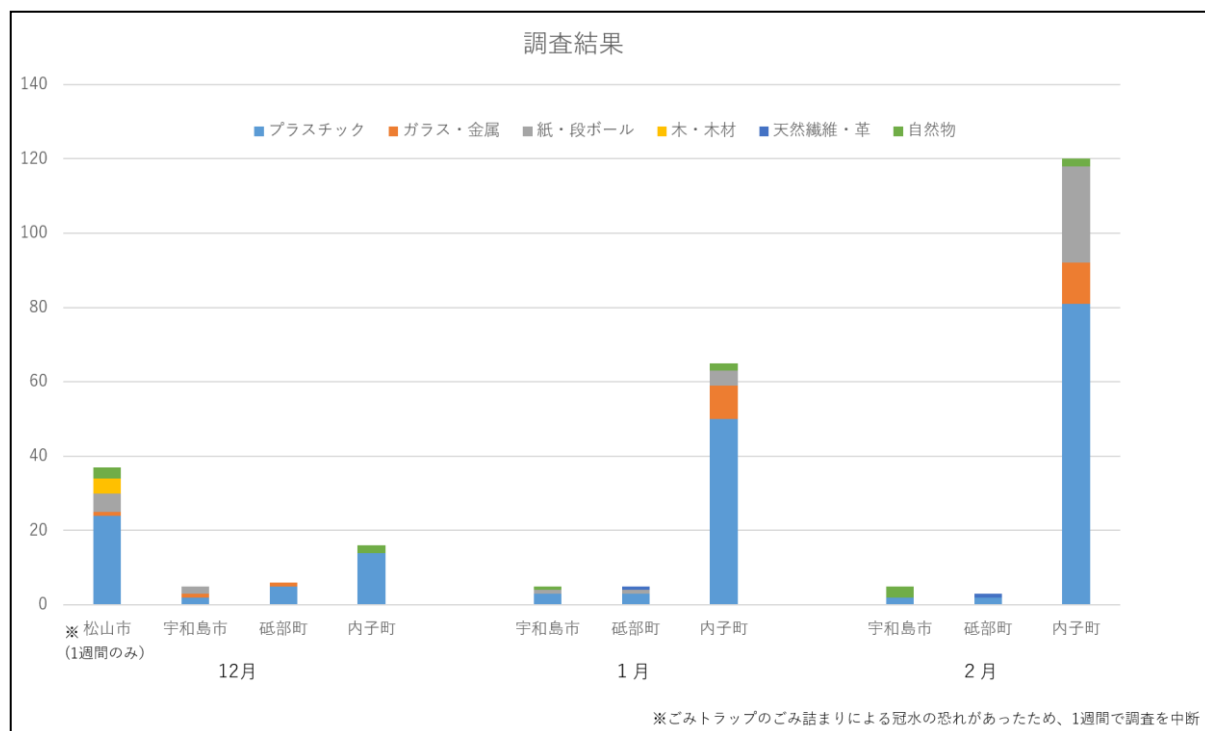
3 調査結果

(1) ごみの分類について

- ・どの地域もプラスチックごみの割合が高かった。
- ・松山市と内子町は住宅街に設置したため、プラスチック類（食品容器、ポリ袋等）や、ガラス・金属類（缶、ビン）等の生活系のごみが多かった。

(2) ごみの個数について

- ・松山市は冠水の恐れがあるため1週間のみ調査となったが、他の地域よりもごみの個数が多かった。住宅街に設置したことが要因と考えられる。
- ・内子町は3ヵ月を通して、他の地域よりも大量のごみが堆積する結果となった。ごみトラップを設置した用水路の上流にコンビニエンスストアがあることが要因と考えられる。



4 集積したごみ



5 調査風景

